

渥美半島でウミアメンボ属 (*Halobates*) (カメムシ目: アメンボ科) 2種を採集

澤田宗一郎*・大野友豪**

Records of two species of the sea skater genus *Halobates* (Insecta, Hemiptera, Gerridae)
from Atsumi peninsula, Aichi Prefecture, Honshu, Japan

Sōichirō Sawada* and Tomohide Ōno**

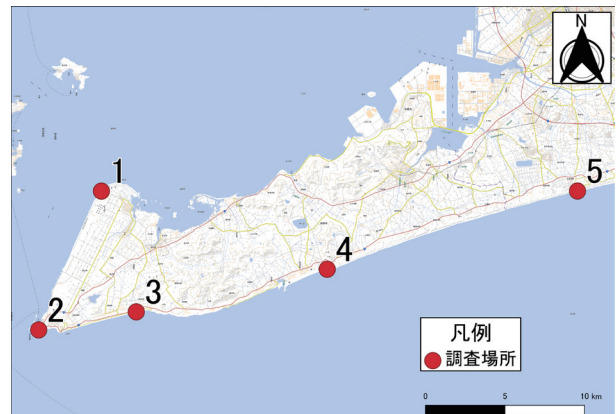
はじめに

アメンボ科昆虫には、淡水域に生息する種と、海水域に生息する種が知られる。海水域に生息する種は、日本からこれまでにシオアメンボ属 (*Asclepios*) 1種、ウミアメンボ属 (*Halobates*) 5種、アメンボ属 (*Aquarius*) 1種の計3属7種の記録がある(林ほか, 2016; Yasunaga *et al.*, 2018)。そのうちウミアメンボ属は最も種数が多く、海水域における代表的な昆虫の一つといえる。

東海地方におけるウミアメンボ属の記録は、静岡県から、ウミアメンボ *Halobates japonicus*, Esaki, 1924 とコガタウミアメンボ *Halobates sericeus* Eschscholtz, 1822 (坂倉・横山, 2016; 石川・多比良, 2020)、三重県から、ウミアメンボとシロウミアメンボ *Halobates matsumurai* Esaki, 1924 (矢崎・石田, 2008; 富田, 2018) の計3種が確認されているが、愛知県における本属の記録は、これまでにない(吉富・長谷川, 1997; 矢崎・石田, 2008)。

ウミアメンボ属には、ウミアメンボのように沿岸域で生活するタイプ(沿岸性)とコガタウミアメンボのように外洋域で生活するタイプ(外洋性)が確認されているが(林・宮本, 2018)、愛知県の海岸線は、内湾側は開発が進み、外洋側は砂浜環境であることから、

入江のような自然地形に乏しく、沿岸性の種の確認は難しいと考えられる。一方で外洋性の種については、台風や季節風といった荒天時の海岸に漂着することが確認されているほか(大原ほか, 2013; 小松・岩切, 2014; 林, 2021)、筆者のうち大野は、2020年10月3日に田原市堀切町風除にて頭部や脚の欠損したセンチウミアメンボ *H. germanus* White, 1833 と考えられる個体と、脚の欠損した本属の幼虫をそれぞれ1個体確認しているが、採集時の損傷が激しく、記録を行って



第1図. 調査場所。
地理院タイルに調査場所等を追記して掲載。
(出典: 国土地理院ウェブサイト <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

* 株式会社テクノ中部. Techno Chubu Co., Ltd., 3-12 Ōe-chō, Minato-ku, Nagoya, Aichi 455-8512, Japan.

** 名古屋大学医学部. Nagoya University Graduate School of Medicine, 65 Tsurumai, Shōwa-ku, Nagoya, Aichi 466-8550, Japan.

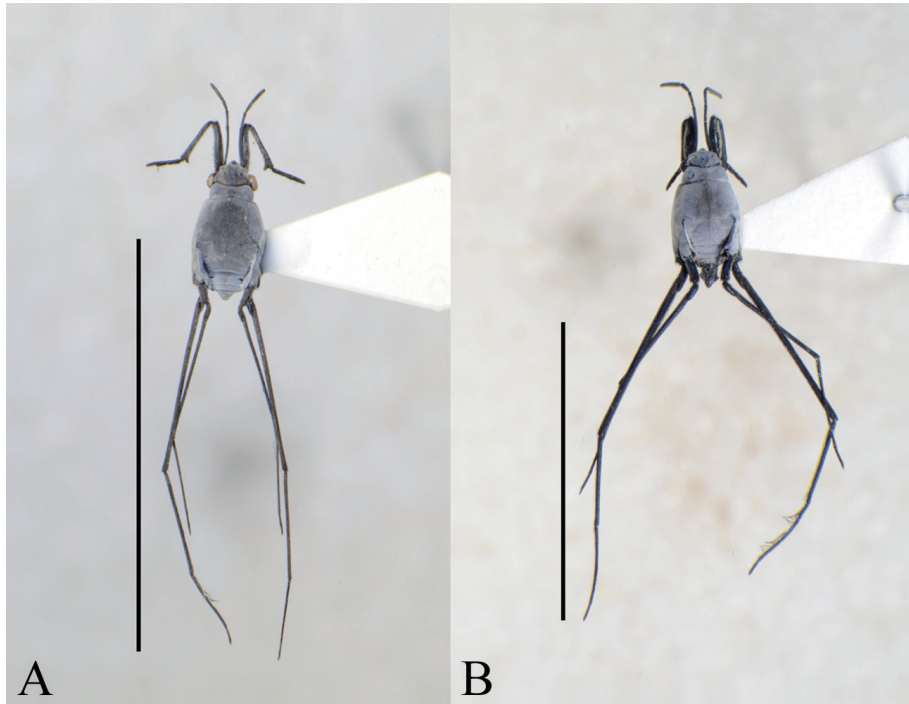
Corresponding author: Sōichirō Sawada, E-mail: pirkimerus@gmail.com

原稿受付 2021年11月30日. Manuscript received Nov. 30, 2021.

原稿受理 2021年12月22日. Manuscript accepted Dec. 22, 2021.

キーワード: ウミアメンボ属, ウミアメンボ, 渥美半島, 遠州灘, 愛知県, 台風.

Key words: *Halobates*, Sea skater, Atsumi Peninsula, Enshūnada Sea, Aichi Prefecture, Typhoon.



第2図. 標本写真.
A, センタウミアメンボ. B, ツヤウミアメンボ (スケールは 10 mm).

ない。以上を踏まえ、本県においても荒天時に本属が漂着するものと考えられ、確実な記録を行う目的で台風通過後に調査を行った。

方 法

調査日：2021年9月19日。台風14号（CHANTHU）が愛知県の沖合を通過した翌日に調査を実施した。

調査場所：渥美半島の三河湾側（内湾側）1点と遠州灘側（外洋側）4点の計5箇所（第1図）とした。

調査方法：各調査地の漂着物を篩にかけるか、手で払いのけるなどして本属の漂着の有無を確認した。

結 果

遠州灘側の2点で2種のウミアメンボ属の漂着を確認した。確認種は、センタウミアメンボ *Halobates germanus* White, 1833（第2図A）とツヤウミアメンボ *Halobates micans* Eschscholtz, 1822（第2図B）であり、ともに愛知県初記録となる。また、東海地方における外洋性の本属の記録は、コガタウミアメンボのみであることから、今回確認された2種は、東海地方においても初記録と考えられる。

以降に各調査場所の環境や確認状況について述べる。なお、調査地の面する湾の名称については、阿知波（2008）で提案された湾の境界をもとに該当する湾の名称を記した。

1. 田原市小中山町久工森

渥美半島の西部の海岸で三河湾に面する。漂着物は、汀線付近から海浜植生の直前にアマモやヨシ等と思われる植物片が見られた（第3図A）。汀線付近の漂着物は湿っていたが、海浜植生の漂着物の多くは乾燥していた。本調査地では、ウミアメンボ属は確認できなかった。

2. 田原市伊良湖町恋路浦

渥美半島の先端の海岸で、伊勢湾、三河湾、遠州灘の境界部に当たるが、本調査では、遠州灘に面する海岸を確認した。漂着物は、汀線付近に見られず、やや離れた場所に流木や植物片等が確認された（第3図B）。本調査地では、ウミアメンボ属は確認できなかった。

3. 田原市小塩津町里瀬古

渥美半島南西部の海岸で、遠州灘に面する。漂着物は、汀線付近で海藻類、植生帯付近でペットボトル等



第3図. 調査場所の環境等.

A, 田原市小中山町久エ森. B, 田原市伊良湖町恋路浦. C, 田原市小塩津町里瀬古. D, ツヤウミアメンボの死骸 (図中の矢印箇所). E, 田原市赤羽根町長沢. F, 豊橋市伊古部町枇杷ヶ谷.

や植物片, ギンカクラゲ等の死骸が確認された (第3図C). 汀線付近の漂着物のほか, 植生帯付近の漂着物についても, 砂利を含め湿り気があった.

本調査地では, ウミアメンボ属 2 種を植生帯付近の漂着物から確認した. 確認種のうち, ツヤウミアメンボについては, 死骸のみの確認であったが (第3図D), センタウミアメンボについては, 死骸のほか, 生存個体が 2 個体確認された.

4. 田原市赤羽根町長沢

渥美半島中部の海岸で, 遠州灘に面する. 漂着物は, 汀線付近に少なく, やや離れた場所でプラスチック製のゴミ, 流木, 植物片, 生物の死骸 (ニホンスッポン) 等が確認された (第3図E). 漂着物は, 湿っていた. 本調査地では, 汀線からやや離れた漂着物から, センタウミアメンボの死骸が 1 個体確認された.

5. 豊橋市伊古部町枇杷ヶ谷

渥美半島南東部の海岸で, 遠州灘に面する.

漂着物は, 汀線付近に少なく, やや離れた場所で流

木、植物片等が確認された（第3図F）。本調査地では、ウミアメンボ属は確認できなかった。

標本

センタウミアメンボ *Halobates germanus* White, 1833

標本：8exs., 田原市小塩津町里瀬古, 19.IX.2021, 澤田宗一郎・大野友豪採集。（うち2個体は豊橋市自然史博物館蔵, TMNH-I-30028, 30029）。1ex., 田原市赤羽根町長沢, 19.IX.2021, 大野友豪採集。

ツヤウミアメンボ *Halobates micans* Eschscholtz, 1822

標本：13exs., 愛知県田原市小塩津町里瀬古, 19.IX.2021, 澤田宗一郎・大野友豪採集（うち3個体は豊橋市自然史博物館蔵, TMNH-I-30030–30032）。

まとめ

台風14号が愛知県の沖合を通過した翌日（2021年9月17日）に渥美半島の海岸を調査したところ、漂着物の中からウミアメンボ属2種を確認した。確認個体の多くは死亡していたが、小塩津町の海岸では、2個体のセンタウミアメンボが生存した状態で確認された。本属の種は、浜に漂着すると、海へ戻れずに死亡してしまう（大原ほか, 2013）。今回の調査で確認された個体は、新鮮な死体あるいは生存していたことから、いずれも前日の台風の影響によって漂着した可能性が高いと考えられる。また、本調査に関連する台風14号の通過経路については、9月17日に九州北部へ上陸した後、やや南下しながら四国上を東へ進み、9月18日の午後に愛知県の沖合を通過後、同日の15時頃に静岡県の沖合で温帯低気圧となった。愛知県の沖合通過時における、中心気圧は1000 hPaで、最大風速は18 m/sであった（気象庁, 2021a）。台風14号が愛知県の沖合を通過した9月18日中の伊良湖気象観測所における風向の状況は、午前中に南南東から南向きの風が吹いた後、午後からは北西から西北西の風向きに変わり、翌日19日の午前まで同様の風向きとなった（気象庁, 2021b）。

本属は、2地点で確認されたものの、その多くは小塩津町の海岸でまとまって得られたことから、風向きや地形等の影響により、当該地に漂着しやすいものと考えられるが、今回の調査からはその判断ができなかった。今後も渥美半島における本属の漂着状況について、継続的な調査の実施が望まれる。

引用文献

- 阿知波英明, 2008. 愛知県沿岸にある湾の範囲はどこか? – 太平洋, 伊勢湾, 三河湾, 知多湾と渥美湾のそれぞれの境界についての考察 –. 愛知県水産試験場研究報告, **14**: 23–29.
- 林 成多, 2021. 日本列島周辺の遠洋性ウミアメンボ3種 – とくに日本海での生息状況. 海洋と生物, **43** (252): 8–11.
- 林 正美・宮本正一, 2018. アメンボ科 Gerridae. 川合禎次・谷田一三 (編), 日本産水生昆虫 – 科・属・種への検索 (第二版), 東海大学出版会, 神奈川, 392–407.
- 林 正美・友国雅章・吉澤和徳・石川 忠, 2016. Family Gerridae アメンボ科. 日本昆虫学会 (編), 日本昆虫目録 第4巻 準新翅類, 権歌書房, 福岡, 369–373.
- 石川 均・多比良嘉晃, 2020. 昆虫類 (カメムシ目). 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課 (編), 静岡県野生生物目録 2020. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 静岡. <https://www.pref.shizuoka.jp/kankyoku/ka-070/wild/mokuroku.html> (2021年11月23日閲覧).
- 気象庁, 2021a. 台風経路図 令和3年 (2021年). https://www.data.jma.go.jp/yoho/typhoon/route_map/bstv2021.html (2021年11月23日閲覧).
- 気象庁, 2021b. 過去の気象データ検索. <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/index.php> (2021年11月23日閲覧).
- 小松孝寛・岩切康二, 2014. 宮崎市の海岸でツヤウミアメンボとコガタウミアメンボを記録. *Rostria*, **56**: 25–26.
- 大原賢二・林 正美・山田量崇, 2013. 徳島県における外洋性ウミアメンボ3種の記録. 徳島県立博物館研究報告, **23**: 69–75.
- 坂倉理一郎・横山謙二, 2016. 静岡市三保半島海浜の昆虫相調査 – 海浜性甲虫を中心に –. 東海自然誌 (静岡県自然史研究報告), **9**: 1–24.
- 富田靖男, 2018. 三重県のカメムシ目. 三重自然誌の会 (編), みえ生物誌 – 昆虫Ⅲ (バッタ・カメムシ他), 三重自然誌の会, 三重, 98–222.
- Yasunaga T., Asanabe H., Hirano A., Momosaka H., Nagashima T. and Hayashi M., 2018. A unique new species of halophilous water strider of the genus *Aquarius* Schellenberg (Hemiptera: Gerridae: Gerrinae) endemic to Omura Bay, Nagasaki, Japan. *The Canadian Entomologist*, **4** (150): 1–27.
- 矢崎充彦・石田和男, 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, **60** (234): 165–200.
- 吉富博之・長谷川道明, 1997. 愛知県のアメンボ. 豊橋市自然史博物館研究報告, (7): 35–39.